

5

安全・快適なまち

安全で、みんなが快適に暮らせるまち

【関連する主な分野】・・・防災・防犯、消防・救急、中心市街地、公共施設、公共交通、幹線道路

安全を基本としながら、多くの人が行き交う中心市街地が一層活気と魅力にあふれ、公共施設が地域コミュニティの中心として十分に活かされるまちをめざします。また、公共施設などを誰もが気軽に利用できるまちをめざします。

達成方針

- 5-①<安全> 災害に強い安全なまちづくりを進める
- 5-②<まちの顔> 活気ある魅力的な中心市街地をつくる
- 5-③<利便性> 誰もが快適に利用できるよう、公共施設などの利便性を高める

災害に強い安全なまちづくりを進める

現状と課題

- 本市は、東海地方に大規模な地震が発生した場合、著しい災害が生ずる恐れのある地域として、地震防災対策強化地域に指定されています。
- 市民一人一人が災害時に迅速に対応できるように多様な情報収集手段、確実性のある広報手段を確立することが求められています。
- 市内には、公園や学校など6箇所の広域避難場所*が指定されており、災害時における市民生活を確保するため、小・中学校など44箇所で食糧や生活必需品などの防災備蓄をしています。
- 災害時の円滑な応急活動を実施するため、総合公園を総合防災基地として、防災資機材などの備蓄をしているほか、避難施設（小・中学校や高校など55箇所）、地域拠点基地（災害時などの地域の情報拠点）の資機材の整備が図られています。
- 地震の切迫性に比べて、防災に対する自助と地域における共助の意識は薄く、早急に意識付けを図る取組みを行うことが求められています。
- 広域的な救援体制の充実を図るための、相互応援協定都市*との連携（職員相互派遣研修など）が求められています。
- 災害や犯罪から暮らしを守るまちづくりが求められています。
- 国民保護計画*の推進が求められています。

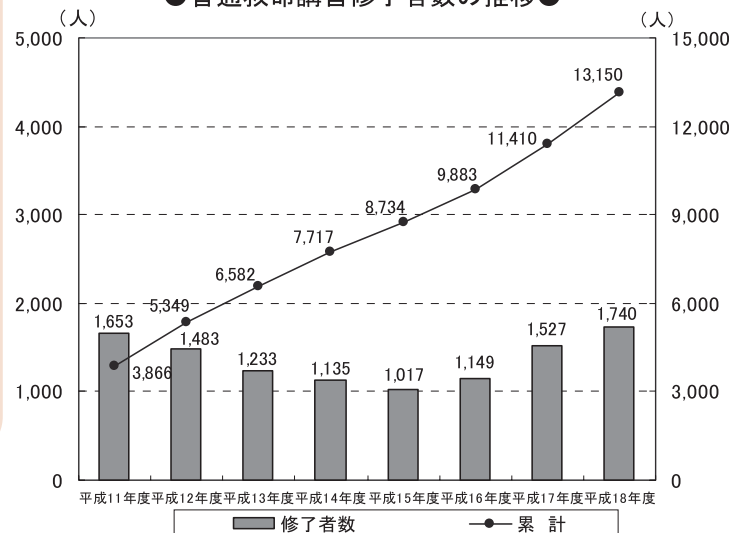
めざすまちの姿や暮らしの状態

市民一人一人に防災、減災*への意識が浸透し、積極的に防災訓練に参加するなど、日ごろから十分な災害への備えをしています。

危機管理の体制や災害時における避難、救援の場となる拠点が整備され、消防・救急活動も迅速かつ的確に行われる体制が整うとともに、市民が安心して暮らせる環境が整っています。

- 災害への備え、災害時の正しい行動のしかたが市民に浸透している
- 迅速に対応できる危機管理の体制が整っている
- 災害時の避難や救援の場となる拠点が整備されている
- 消防・救急活動が迅速かつ的確に行われている
- 安心して暮らせる安全なまちの環境が整っている

●普通救命講習修了者数の推移●



資料：消防概要

基本施策

1. 安全に対する意識を高める

- ◆震災を始めとした自然災害から身を守るために、防災訓練の参加や避難場所・経路の確認、市民一人一人に十分な災害への備えを促すなど、防災意識の啓発を図ります。
- ◆犯罪に巻き込まれないために、防犯に係る啓発活動を充実し、防犯意識の高揚を図ります。
- ◆警察など関係機関と連携して交通安全運動などを開催し、交通安全意識の高揚を図ることで、歩行者や自転車、自動車などの交通事故の減少につなげていきます。
- ◆市民生活を脅かす火災から身を守るために、火災予防についての啓発活動や訓練などを推進します。

【個別施策】

- 1 自然災害に対する防災意識の高揚
- 2 防犯意識の高揚
- 3 交通安全意識の高揚
- 4 火災予防の推進



交通安全教室

2. 被害を最小限に抑える 防災の環境を充実する

- ◆市民一人一人が災害時に迅速かつ的確な行動がとれるように防災情報の伝達手段を充実します。
- ◆国民保護計画※に基づき、避難実施要領の的確な周知を図ります。
- ◆災害時における高齢者や障害者などの安否確認や救出、移動支援などの対策を充実します。また、防災拠点となる各公共施設に対して、防災資機材、食糧、生活必需品などの備蓄を計画的に進めます。
- ◆災害による被害を最小限に抑えるため、建築物などの耐震性や道路、橋りょうなどの安全性の向上を促進します。

【個別施策】

- 1 災害情報提供の充実
- 2 防災体制と拠点の充実
- 3 建築物などの耐震性や道路、橋りょうなどの安全性の向上



災害用組立トイレの設置訓練

序

基本構想

基本計画

5

安全・快適なまち

主な事業 <安全>

3. 迅速かつ的確な消防・水防と救急・救助、救援の体制を充実する

- ◆ 消防力を高めるため、消防庁舎、消防車両、資機材及び通信の整備充実を図ります。
- ◆ 水防力を高めるため、水防団の育成や資機材を整備します。
- ◆ 複雑多様化する災害・事故に対応するため、救急隊員への教育訓練の強化や資機材の充実を図るとともに、市民への応急知識の普及を推進します。
- ◆ 他自治体との救援協定の推進を図り、災害時における応援体制の強化を図ります。

【個別施策】

- 1 消防体制の充実
- 2 水防体制の充実
- 3 救急・救助の充実
- 4 広域的な救援体制の充実

◆ 災害知識の普及・啓発

(基本施策1—個別施策1)

◆ 個人建築物などの耐震化の促進

(基本施策2—個別施策3)

◆ 消防庁舎・訓練施設・消防車両の整備

(基本施策3—個別施策1)



災害想定訓練



出初一斉放水



水難救助訓練

市民と市の役割

◆市民◆

- 災害や防犯に対する家庭での備え
- 訓練や講習会への参加
- 交通ルールを守る
- 避難場所、経路及び方法についての確認
- 建物の耐震・耐火性の把握と災害への備え

◆市（行政）◆

- 防災・防犯や交通安全に関する啓発
- 訓練や講習会の実施
- 災害に強い都市づくりへの情報提供と支援
- 防災管理体制づくりの推進

序

基本構想

基本計画

5

安全・快適なまち

施策の体系

達成方針5-①<安全> 災害に強い安全なまちづくりを進める

●基本施策●

1. 安全に対する意識を高める

2. 被害を最小限に抑える防災の環境を充実する

3. 迅速かつ的確な消防・水防と
救急・救助、救援の体制を充実する

●個別施策●

- 1 自然災害に対する防災意識の高揚
- 2 防犯意識の高揚
- 3 交通安全意識の高揚
- 4 火災予防の推進

- 1 災害情報提供の充実
- 2 防災体制と拠点の充実
- 3 建築物などの耐震性や道路、橋りょうなどの安全性の向上

- 1 消防体制の充実
- 2 水防体制の充実
- 3 救急・救助の充実
- 4 広域的な救援体制の充実

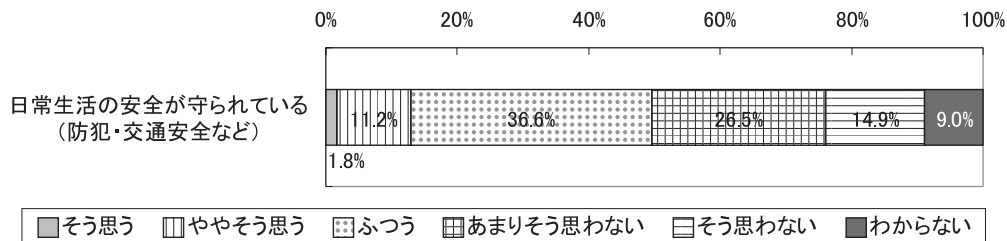


救急搬送訓練

成果指標

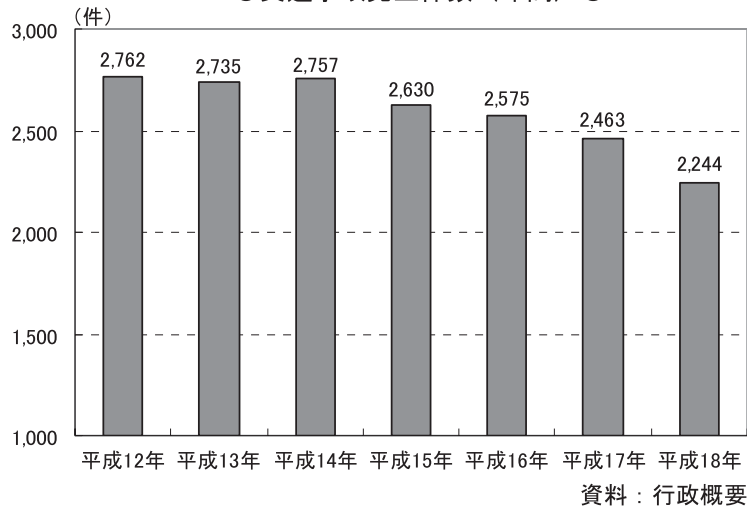
指標	現状値	5年後の 目標値	10年後の 目標値	備考
		【平成23年度】	【平成28年度】	
火災発生件数（年間）	108 件	104 件	99 件	担当課資料（平成18年度） 火災予防の効果を示す
普通救命講習修了者数 （延べ人数）	13,150 人	23,150 人	33,150 人	担当課資料（平成18年度） 安心・安全への市民意識を示す
「日常生活の安全が守られている」と感じている市民の割合	13.0 %	20.0 %	30.0 %	市民意識調査（平成16年度） 防犯環境に対する市民意識を示す
防災訓練実施団体数 （年間）	265 団体	280 団体	300 団体	担当課資料（平成18年度） 防災体制の充実を示す
犯罪発生件数（年間）	4,833 件	4,400 件	4,100 件	行政概要（平成19年版） 安全意識の高揚を示す
交通事故発生件数（年間）	2,244 件	2,100 件	1,900 件	

●【安全】に関連する項目の満足度●



資料：平塚市市民意識調査（平成16年度）

●交通事故発生件数（年間）●



活気ある魅力的な中心市街地をつくる

現状と課題

- 中心市街地（見附町、錦町、紅谷町、明石町、宮の前、宝町、老松町、八千代町、八重咲町、代官町）は、戦後の惨禍から復興を遂げて、市民の生活を支えているほか、湘南ひらつか七夕まつりなどが広く知られています。
- 近年、郊外への大型店の進出、長期化する低成長経済の影響から活力が失われつつあります。
- にぎわいの再生をめざし、活性化を図る組織が各種事業を進めている一方、まちづくり計画に基づき、平塚の顔にふさわしい街の再整備が進められています。
- 駅前大通り線歩道の2列駐輪など、駅周辺には放置自転車がが多く、安全面・景観面で問題となっており、これに替わる駐輪スペースの確保が求められています。
- 中心市街地における都市景観は、多種多様な看板や広告物などの設置、統一感のない建物などによる街並みが見られ、駅周辺の放置自転車を含め雑然とした面が見られます。
- 夜に安心して歩けないという市民の声があります。
- 人が集まる拠点として駅周辺において、バリアフリー化など誰もが安全で快適に利用できる環境づくりを一層進めることが求められます。

めざすまちの姿や暮らしの状態

平塚の顔として、魅力的で秩序ある中心市街地が形成され、多くの市民や市外からの買い物客などでにぎわっています。

市民との協働による防犯対策や交通安全対策が実り、買い物や様々な人がふれあう交流の場としての機能を発揮し、誰もが安心して安全に過ごしています。

- 商店街が魅力にあふれ、人々が集まりにぎわっている
- 高齢者から子どもまで、多くの人が街へ出かけて楽しく過ごしている
- 誰もが憩えるような、良好な駅周辺の環境が整っている
- 市民と協働で防犯対策に努め、誰もが安心して歩ける街になっている



湘南ひらつか七夕まつり

基本施策

1. 人々が集まり、にぎわいと 活気にあふれる街づくりを進める

- ◆市民の暮らしのニーズにこたえられるよう、活性化を図る組織を中心として商店街の機能を充実します。
- ◆広域的な集客力の向上に資する商店街の魅力づくりを促進します。
- ◆全国的に知名度のある七夕まつりは、協働による運営を推進します。

【個別施策】

- 1 にぎわいと活気あふれた商店街づくり
- 2 七夕まつりの活性化

2. 人々が憩えるゆとりと うるおいのある都市空間を創造する

- ◆見附台周辺地区など公共空間の再整備や公共公益用地を有効活用し、市民が憩える空間の整備を進めます。
- ◆高齢社会に対応して誰もが安全に駅周辺のまちを利用できるよう、ユニバーサルデザイン※、バリアフリー※に配慮した平塚駅北口広場の整備改善、西口再開発を進めます。
- ◆まちの顔として、魅力的で秩序ある都市景観づくりを促進します。

【個別施策】

- 1 市民が憩える空間整備の推進
- 2 駅前広場などの整備改善
- 3 魅力ある都市景観づくりの促進

3. 誰もが安心して、安全、 快適に過ごせる環境づくりを進める

- ◆駅周辺における、放置自転車対策や駐輪場の整備などを進め、快適に歩ける環境づくりに努めます。
- ◆警察と市民が連携した地域ぐるみのパトロールなどにより、防犯体制を強化し、市民が安心して、安全に過ごせるまちづくりをめざします。

【個別施策】

- 1 駐輪場の整備改善
- 2 犯罪のない安心・安全なまちづくりの推進

主な事業 <まちの顔>

- ◆中心市街地活性化の推進
(基本施策1—個別施策1、
基本施策2—個別施策1)
- ◆見附台周辺地区の再整備
(基本施策2—個別施策1)
- ◆平塚駅北口広場の整備
(基本施策2—個別施策2)
- ◆平塚駅西口再開発の推進
(基本施策2—個別施策2)
- ◆平塚駅周辺駐輪場の整備
(基本施策3—個別施策1)



湘南よさこい祭り

市民と市の役割

◆市民◆

- 個性あふれる商品・商店街づくり
- 七夕まつりへの積極的な参加
- 安全な自転車通行や交通ルールの遵守
- 防犯活動への主体的取り組み

◆市(行政)◆

- 中心商店街活性化への支援
- 駅周辺の公共空間の整備
- 駐車・駐輪対策の推進

施策の体系

達成方針5-②<まちの顔> 活気ある魅力的な中心市街地をつくる

●基本施策●

1. 人々が集まり、にぎわいと活気にあふれる街づくりを進める
2. 人々が憩えるゆとりと
うるおいのある都市空間を創造する
3. 誰もが安心して、安全、快適に過ごせる環境づくりを進める

●個別施策●

1. にぎわいと活気あふれた商店街づくり
2. 七夕まつりの活性化
1. 市民が憩える空間整備の推進
2. 駅前広場などの整備改善
3. 魅力ある都市景観づくりの促進
1. 駐輪場の整備改善
2. 犯罪のない安心・安全なまちづくりの推進



平塚駅



スターライトフェスティバル

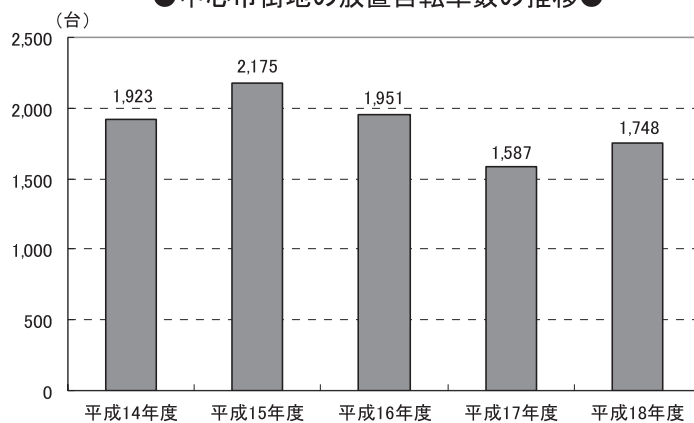


紅谷町まちかど広場

成果指標

指標	現状値	5年後の 目標値	10年後の 目標値	備考
		【平成 23 年度】	【平成 28 年度】	
中心市街地年間商品販売額	212,214 百万円	212,500 百万円	213,000 百万円	平塚市の商業（平成 16 年商業統計調査結果報告） 中心市街地における卸売・小売業の商品販売額により、商業の状況を示す
紅谷町まちかど広場利用イベント数（年間）	48 件	70 件	90 件	担当課資料（平成 18 年度） 利用イベント数により、活性化の状況を示す
七夕まつり市民協力・子ども竹飾り参加団体数	45 団体	50 団体	55 団体	七夕まつり実績報告（平成 18 年度） 市民参加団体数により、七夕まつりの活性化の状況を示す
七夕まつり市民自主企画事業数	10 事業	12 事業	14 事業	七夕まつり実績報告（平成 18 年度） 市民自主企画事業数により、七夕まつりの活性化の状況を示す
中心商店街歩行者通行量（1 日当たり）	平日 171,063 人 休日 187,452 人	平日 172,000 人 休日 188,000 人	平日 177,000 人 休日 195,000 人	平塚市商業のあらまし（平成 18 年度） 歩行者通行量により、商店街のにぎわいや市民が憩える空間が整備されている状況を示す
放置自転車数（中心市街地、1 日当たり）	1,748 台	100 台	50 台	担当課資料（平成 18 年度） 駐輪場の整備により、放置自転車数が減少し、快適に過ごせる中心市街地の状況を示す
「中心商店街を快適に歩ける」と感じている市民の割合	4.6 %	10.0 %	20.0 %	平塚市商業アンケート調査（買物調査）（平成 17 年度） 中心商店街が快適であると感じる市民意識を示す

● 中心市街地の放置自転車数の推移 ●



資料：担当課資料

誰もが快適に利用できるよう、公共施設などの利便性を高める

現状と課題

- 市庁舎、市民センターなどの公共施設は老朽化が進み、市民生活の拠点として適切な対応が求められています。
- 公共施設には、健全で効果的な運営と的確なサービスを提供するため、民間活力を活用しながら市民の多様なニーズにこたえる施設の管理・運営を行うことが求められています。
- 本市では、JR東海道本線が市南部の市街地中心部を東西に通っていますが、平塚駅が唯一の駅となっており、駅を起点とした放射状の道路網を形成しているため、駅に集中するバス路線の定時性確保などが課題となっています。

めざすまちの姿や暮らしの状態

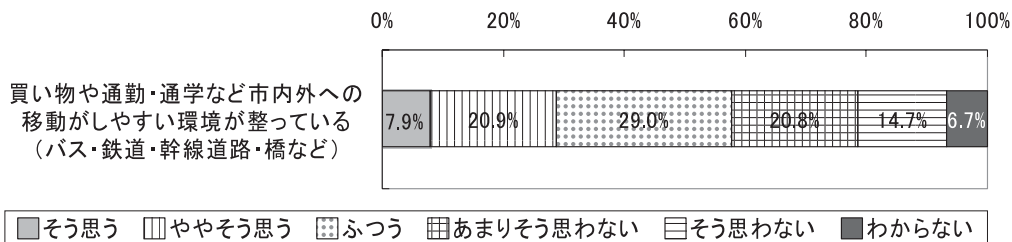
公共施設は市民生活を支える拠点として、高齢者や障害者など誰でも快適に利用できるようにバリアフリー化や耐震補強、建替えなど、実情に合わせた改善が進んでいます。

また、民間活力や市民力を活用し、市民の暮らしのニーズに合わせて工夫された公共施設の管理・運営がされています。

総合交通体系の利便性が向上し、市内の移動は、環境負荷*の少ない自転車や公共交通機関の利用が増えています。

- 誰もが快適に公共施設を利用し、いきいきと暮らしている
- 誰もが快適に公共交通機関を利用し、スムーズに往き来している

●【利便性】に関連する項目の満足度●



注) 四捨五入の関係で、合計が100%にならない場合がある。

資料：平塚市市民意識調査（平成16年度）

基本施策

1. 安全で快適に利用できる 公共施設の充実を図る

- ◆高齢者や障害者が気軽に利用できるよう公共施設のバリアフリー化を推進します。
- ◆災害時の地域の防災拠点として機能するために、施設の安全性を確認するなど、耐震性の向上を図ります。
- ◆市民生活を支える拠点として安全、快適に利用するために、市庁舎や市民センターを始めとする老朽化した公共施設の補修や建替えの検討を進めます。

【個別施策】

- 1 施設のバリアフリー化
- 2 施設の耐震性の向上・老朽化の改善に伴う補修・建替え

2. 市民ニーズに合った 公共施設の適正な管理と運営を進める

- ◆市民ニーズに合った柔軟な公共施設の管理・運営を行うため、民間活力を活かした指定管理者制度^{*}などを推進します。
- ◆市民や地域の力を活用し、協働による管理・運営のしくみづくりを進めます。

【個別施策】

- 1 民間活力を活かした公共施設の管理・運営の推進
- 2 市民との協働による公共施設の管理・運営のしくみづくり

3. まちの活動に活力をもたらす 公共交通の利便性を高める

- ◆公共交通の安全性・利便性を高めるために、バリアフリー化の推進など、市民が快適に移動できる環境整備を推進します。
- ◆既設鉄道路線の乗り入れなど、貨物線の有効活用の促進や、市民の暮らしのニーズに合った総合交通体系の検討を進めます。
- ◆広域交通、地域交通の円滑化を図るため、幹線道路や橋りょうの整備を推進します。

【個別施策】

- 1 公共交通の安全性・利便性の向上
- 2 ニーズに合った総合交通体系の検討
- 3 幹線道路・橋りょうの整備

主な事業 <利便性>

- ◆市民病院整備事業
(基本施策1－個別施策2)
- ◆新庁舎建設事業
(基本施策1－個別施策2)
- ◆新文化センター整備事業
(基本施策1－個別施策2)
- ◆総合交通体系整備計画の策定
(基本施策3－個別施策2)

市民と市の役割

◆市民◆

- 高齢者・障害者の移動への理解と支援
- 公共施設の新たな管理・運営への参加
- 環境に配慮した適切な交通手段の選択と行動

◆市（行政）◆

- 施設の耐震性・バリアフリー化の推進
- 公共施設の新たな管理・運営の推進
- 公共交通機関を利用しやすい環境整備と交通事業者との連携強化
- 自転車利用に向けた環境整備の推進

序

基本構想

基本計画

5

安全・快適なまち

施策の体系

達成方針5-③<利便性> 誰もが快適に利用できるよう、公共施設などの利便性を高める

●基本施策●

1. 安全で快適に利用できる公共施設の充実を図る

2. 市民ニーズに合った公共施設の適正な管理と運営を進める

3. まちの活動に活力をもたらす公共交通の利便性を高める

●個別施策●

- 1 施設のバリアフリー化
- 2 施設の耐震性の向上・老朽化の改善に伴う補修・建替え

- 1 民間活力を活かした公共施設の管理・運営の推進
- 2 市民との協働による公共施設の管理・運営のしくみづくり

- 1 公共交通の安全性・利便性の向上
- 2 ニーズに合った総合交通体系の検討
- 3 幹線道路・橋りょうの整備



美術館



中央公民館

成果指標

指標	現状値	5年後の 目標値	10年後の 目標値	備考
		【平成 23 年度】	【平成 28 年度】	
公民館利用者数 (中央公民館及び 25 地区公民館) (年間)	1,266,980 人	1,452,000 人	1,602,000 人	行政概要 (平成 19 年版) 公共施設の利便性の状況を示す
青少年会館利用者数 (年間)	85,342 人	88,000 人	90,000 人	
市民センター利用者数 (年間)	177,980 人	180,000 人	275,000 人	
博物館利用者数 (年間)	74,898 人	78,000 人	86,000 人	平塚市統計書 (平成 18 年版) 公共施設の利便性の状況を示す
美術館利用者数 (年間)	59,080 人	65,000 人	80,000 人	
管理・運営を、行政から事業者、市民活動団体などへ変更した公共施設数 (延べ施設数)	10 施設	30 施設	60 施設	担当課資料 (平成 18 年度) 民間活力の導入の状況を示す
「買い物や通勤・通学など市内外への移動がしやすい環境が整っている」と感じている市民の割合	28.8 %	35.0 %	40.0 %	市民意識調査 (平成 16 年度) 市内外への移動しやすい状態を示す
平塚駅でのバス乗降者数 (1 日当たり)	40,000 人	41,000 人	42,000 人	担当課資料 (平成 18 年度) 公共交通機関の利便性の状況を示す
平塚駅での電車乗車人数 (1 日当たり)	58,200 人	58,200 人	59,000 人	平塚市統計書 (平成 18 年版) 公共交通機関の利便性の状況を示す

注) 公共施設などの指標については、「利用者数」で統一しています。



玉川橋・東雲橋